

となりの和也

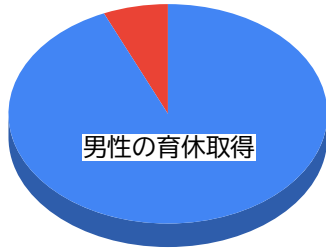
近藤和也が発行する「近藤通信」の若者・子育て層向けとして発信する「みらい通信」です。皆様の声をお聞かせください。今回は、①近藤がとりまとめた若者アンケートのうけとめと、②親子インタビューを掲載しています。



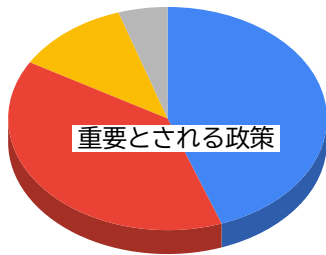
調査によって自分の旧来の 価値観に気づけた

2020年国民民主党青年局長時代に取りまとめた13,563件のアンケート調査の結果、若い世代の働き方や子育ての意識が浮き彫りになった。

● 賛成
● 反対



● 妊活から出産までの支援 (不妊治療、病院受診女性など)
● 出産から義務教育までの支援 (出産後手当、保育園整備など)
● 義務教育から大学までの支援 (給食費無償化、高校大学無償化など)
● その他



こんどう和也「当時、このアンケートは全部目を通しました。

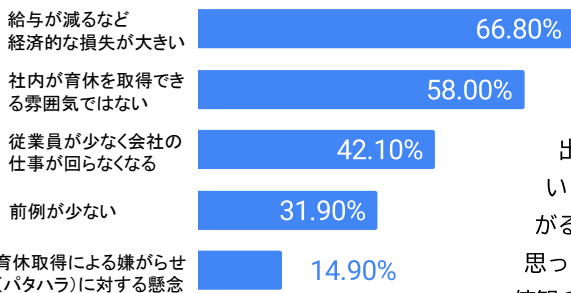
そして記述式のものを取り分けて目を通しました。子育て支援について重要視されている3つの事項については、国が手当すべきだということと個人の自由だということ、かなりバラバラだなあという感じもありました。若い人にも古い考え方もあれば新しい価値観の方もいらっしゃることを政治が受け止めていかなくてはいけないなという感じでした。

大きな会社はいいけれども、小さな会社、地方はまだ男性上位に女性下位。そして育児は女性という価値観。男が仕事を休んで何をやるんだというその雰囲気から抜け出すことはできない、そういう声がかかりたくさんありましたね。少なくとも子育て支援ということに関しては、核家族化が進んでいる中で、以前であればお母さんやおじいちゃんやおばあちゃんを含めて子育ての主戦力だったが、しかしこれからはおじいちゃんおばあちゃんが近くにいないという前提であれば、男性も多く子育てに関わることは当然として、受け止めてやっていかなくてはいいけない。

それは家庭だけではなくて、会社も含めて、こどもが熱を出したら休みたいというのを父親が言っても当たり前にしていく社会は必要だと思う。特に会社の理解というのは政治に繋がる部分があるから。いままで私自身も子育て政策はだいたいだと思っていたけれども、このアンケートをするまでは実は旧来の価値観の中にまだいたのかなという感じがします。」



男性の育休取得率が低い理由



—こんどう和也さんの子育てとはどんなでしたか？

和也(父)「典型的な昭和の人間でしたね。仕事一筋で、会社から休みをとれと言われても査定を考えると怖くてできない。仕事の営業の遠距離移動があるときは家族と一緒に移動して、ついでに観光してもらったり。」

みこ(娘)「そうそう。土日しか会わない。お父さんとは認識してたけど

(笑)。お母さんからみれば、週末だけこどもを甘やかす感じ。だけど、お母さんが一度用事で出かけたときに、なぜか母以上に家事について厳しくて。」

和也「私もぜんぜん片付けられないんで、家が子どもたちと私だけになると家全体が散らかし放題になったので、危機感を感じて、家事に厳しくなっていましたね、自分ができないくせに。反省しています。」

